長洲町立長洲小学校　校長便り　No.４１

みんなの居場所

令和４年１０月１７日(月)

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

お便り紹介

校長便り第３９号「雑感“柿”」に対してお便りを頂きました。何度頂いても嬉しいものですね。以下です。

「柿の話、感動いたしました。ならなかった柿がその年だけ実るとは…。神様がいるのではないかと思いますね。私も日々、謙虚でありたいと思います。」

追伸として「大人でも意味を知らない慣用句がたくさんありますね。」とありました。２年生の保護者の方からだったのですが、校長便りの隅々まで読んで頂いていることが伝わり、身の引き締まる思いです。今後とも、笑って読んで頂ければと思います。

ＳＮＳの危険性を考える

今回はＳＮＳとの付き合い方についてお話してみます。

さて、私達はどうやってＳＮＳと向き合っていけばいいでしょうか。教育現場で仕事をしていますので、情報発信に伴う危険を意識はしているものの、自分事として捉えられているかは疑問です。ＳＮＳというツールが日常に溶け込んだ結果、その危険性について意識できなくなっているように思います。それが問題の起こる原因だと私は考えています。今回の話は、是非とも子供達にも読んで欲しいし、周りの友人、保護者仲間の皆様に伝えて欲しいと思っています。特に『日常にスマホが溶け込んでいる人』ほど、熟読して欲しいと思います。ＳＮＳは扱いを一歩間違えると、非常に危険なツールです。現代においては、『情報がもたらす影響力』はそれほど強いのです。

①全世界発信である怖さ

ＳＮＳは、基本的には全世界に向けて発信されます。とある街角でTwitterを更新したとします。何気ない出来事ですが、信号待ちをしている人、後ろに立っている人でも、発言を見られます。今の時代では誰でも簡単に他人の言動を知ることができるのです。わざわざ自分の様子を、特定の誰かに届けているのではなく、全世界の人間に対して発信していることを改めて認識する必要があります。

②位置情報はプライバシーを脅かす

Twitterやfacebookでの投稿は、設定によっては自分の現在地を知らせることができます。友人に対して「今ここにいますよ～」と伝えたいだけだったかもしれません。ですが同時に、他人に対して「私はここにいるんです」と発表しているのと同じなのです。これが自宅でなければ、まだ救いようがあります。ですが、「夕食なう」なんてツイートに位置情報が付いていたら、それは「私の家はここにあります」と公言しているのと同じです。もしかしたら、いきなり見ず知らずの人が、家を特定して、ニヤニヤしながらジッと部屋を見ていたり、呼び鈴を鳴らしたりするかもしれません!?　怖っ！　写真を投稿するのは危険なことなのです。

③間違った使い方は人生崩壊の元

ＳＮＳを使うことが危険なのではありません。正しい使い方をすれば、ＳＮＳでの危険度は低くなります。しかし、『一歩間違えれば人生を狂わせるほどの影響力がある』というのも、決して忘れてはいけません。友だちの事を誹謗中傷するようなことは絶対にダメです。友人を失い、果ては事件事故にまで発展します。情報とは、それほどまでに強い力を持っているのです。

シリーズ「自分を語る」＃４１

９月、いよいよ職場復帰です。年度を跨いで休んでいましたので、もう浦島太郎のような気分でした。しかも、入院前と同様の「重症心身障がい」部の所属でした。ここでは同僚職員からすごく助けてもらいました。本来、子供達を抱えることができなければ仕事にはならないのですが、私が担当する児童は必ず、他の職員が抱えてくれました。お陰で私は異動するまで、子供を抱え上げることは無く、背中を支える程度の負担しかかかりませんでした。それも良いリハビリになったようでした。

順調に仕事に復帰し慣れてきた頃、私は次の異動を考え始めました。小学校を希望するか養護学校を希望するかです。私は、少々迷いましたが小学校を希望しました。腰の不安や小学校の先生になりたいという子供の頃からの夢を、総合的に考え判断した結果でした。それから暫くは、異動に関してはどうでもよくなっていました。それよりも重要視したのは、子供達に真摯に向き合うということをしっかり考えるようになりました。子供達が充実した人生を送るために、私達は何をすべきなのか、本当にあの時は柄にもなく考えました、真剣に。そこで思いつき、行動に移したのは、子供達を保護者と協力して外に連れ出すことと、保護者との「飲みにケーション」です。元来、人と話すのは嫌いではないので、あっという間に保護者と仲良くなることができました。当時は、子供達の家で飲み過ぎて酔いつぶれて、そのまま泊まって、そこから出勤したということもしばしばでした。この時期は、保護者との連携の大切さが、何となく大切だということに気付き始めた時期だと思います。

そして３月、いよいよ子供達、保護者の方々との別れの日が来ました。

異動に関しては当時、希望を出すのに少し考えたことを思い出します。私の場合、何処に行っても「住めば都」で、そこの環境にはすぐに慣れてしまいます。だからこそ、自分の将来の身の振り方についても考えていたようでした。

さて、気になる異動先は上益城郡嘉島町にある嘉島西小学校でした。前年度まで養護学校だったので、また新たなスタートを切る訳です。早速、あいさつに伺いました。嘉島町には私の伯父夫婦が住んでいたので、何となく愛着を感じる場所でした。

校長室にて。

「澤田先生、ようこそ嘉島西小学校へ来てくださいました。先生には一つ大きな仕事をして頂かなくてはなりません。特別支援学級の立ち上げです。希望もあると思いますが、この１年は立ち上げに専念して頂きたい。」

この時実は少々迷いました。しかし、新しいことにチャレンジすることは楽しいものです。黒石原養護学校での経験を少しでも活かすことができればと考えました。しかし、まともに勉強していなかったので専門知識に乏しく、当時は「知識を活かす」というより、「新しい知識を得る」時間だったのかもしれません。しかも、小学校での研修は全く受けないまま小学校に再配されているので、小学校の専門知識もなく、毎日何かしら本を読み知識を得ていた時間でした。仕事が終わり帰宅しても、酒を飲むでもなくテレビを見るでもなく、只々、教育書ばかり読みました。この頃が一番勉強したなと思います。

（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）